

## 2021年度 研究、教育、社会・学会活動報告書

### 1. 研究（本年度のみ）

ふりがな	こじま りさ					
教員氏名	小島 理沙		職 位	准教授	学 位	修士
アルファベット表記	Risa Kojima					
専門分野	環境経済学、廃棄物政策					
研究課題	テーマ	食品ロス、容器包装廃棄物政策				
	概要	食品ロス、容器包装廃棄物の発生抑制対策の実証研究				
本年度 研究業績	研究費	総額： 755 万円 内訳：個人研究費 25 万円 / 科学研究費 円 そ の 他 720 万円(アーバンイノベーション神戸/神戸大学) 10 万円(みらい授業研究費)				
	研究テーマ	廃棄物の発生抑制政策				
	経過と到達点	食品ロス論文1本を英文雑誌に投稿中。もう1本がもうすぐ完成し投稿する。博論を3月までに提出				

#### (1) 学術論文

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
⑤紀要論文	「つくる責任・つかう責任」を容器包装から減装（へらそう）ショッピング	2021年5月	単著	包装技術 18 (298)	SDGs の解説とそれを実践した減装ショッピングプロジェクトの取り組みについて
⑥紀要研究ノート、専門誌記事等	持続可能な社会と容器包装減装ショッピングのSDGsとしての意義について	2022年1月	単著	一般社団法人日本食品包装協会 会報	SDGs と減装ショッピングの意義について
⑥紀要研究ノート、専門誌記事等	廃PETボトルの資源価値①	2021年10月	単著	月刊廃棄物 10月号	廃PETボトルの資源価値情勢を分析
⑥紀要研究ノート、専門誌記事等	廃PETボトルの資源価値②	2021年11月	単著	月刊廃棄物 11月号	今後の廃PET資源価格や飲料業界の行方

## (2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
⑧共著書・ 共訳書				
⑨単著書・ 単訳書				

## (3) 外部研究資金獲得(競争的資金獲得)

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑩共同研究 (研究代表)	ライフスタイルの多 様化が進行する超高 齢社会における資源 回収システムデザイ ンの研究 (小島理沙)	2021 年 10 月 ~ 2022 年 9 月	大学発アーバンイノ ベーション神戸(神 戸市)	高度な資源循環を達成するためには、高度な分別排出行動が不可欠である。現状の排出レベルと課題を抽出すべく KDDI 総合研究所と共同で神戸市民 1000 人を対象とした社会調査等を実施する。

## 2. 教 育 (本年度のみ)

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
担当科目	講義	キャリアプランニングⅠ、社会コミュニケーション入門	環境学入門 B
	演習	基礎ゼミナール、ゼミナールⅡ、ESD 演習Ⅰ・Ⅱ	ゼミナールⅢ
	実習	プロジェクト演習、キャリア実践	プロジェクト演習、キャリア実践
教育内容・方法 の工夫	◆ 講義科目	課題作成を充実させることで、学生が自分事として考える工夫を行った。	
	◆ 演習科目	調べる力、分析する力、まとめる力、発表する力を総合的に習得できるプログラムをデザインした。	
	◆ 実習科目	前期に座学や見学等を通じた知識習得を行い、後期に実践編を行った。	
	◆ その他(教科書・教材等の作成を含む。)		

## (1) 課外活動

①研修旅行 海外	
②研修旅行 国内	琵琶湖博物館 解剖実習 日帰り

## 3. 社会・学会活動（本年度のみ）

## (1) 公的委員会

分 類	活動・講演の概要
①委員長・座長 国・国際機関	
②委員長・座長 上記以外	大阪府公募型プロポーザル方式等事業者選定委員会 委員長 神戸市ペットボトルリサイクル（PET to PET）事業者評価委員会 委員長
③委員・アドバイザー 国・国際機関	3R 推進マイスター
④委員・アドバイザー 上記以外	豊中市第13期豊中市廃棄物減量等推進審議会委員 日本包装学会 編集委員

## (2) 学術団体の理事（日本学術会議協力学術研究団体）

分 類	活動・講演の概要
⑤理事長・会長	
⑥理事	

## (3) 講演会

分 類	活動・講演の概要
⑦講演者・登壇者・学会座長	つくる責任・つかい責任の実践事例 容器包装を減らす減装ショッピング 第173回食品流通包装懇話会 2022年1月27日（講演）
⑦講演者・登壇者・学会座長	SDGs×食品ロス 食品ロスダイアリーアプリを活用した調査研究 兵庫県・APN連携フォーラム 2021年12月23日（講演）
⑦講演者・登壇者・学会座長	プラスチック資源循環を考える～社会構造とリサイクル～ ライデン（オランダ）大学 2021年10月18日（オンライン講義）

## 4. 特記事項（本年度のみ）

昨年度、住友財団の助成金を獲得いたしました。管理大学を神戸大学にしたためか、業績から除外されていたようです。本報告が大学教員としての研究業績、教育業績としての評価をする目的のものであるならば、クロスアポイント契約をしている大学での研究業績も「教員の研究業績」として取り扱っていただきたいです。もし、当該報告書が短大への「貢献」という意味で取り扱われているようでしたら、当該報告書を作成する目的に「短大への貢献を図るものである」と明記していただきたいです。

尚、昨年度住友財団の研究助成金獲得に際し、管理大学を神戸大学にした背景は、前学長が研究費の使用について、恣意的な管理をする恐れがあると感じていたためです。今年度より学長が変わり、現在は全うな学校管理がされていることから、今後は短大管理の研究費を獲得していきたいと思っています。

また、「アーバンイノベーション神戸」は、神戸市が独自につくった科研費の神戸市版です。そのため、申請が神戸市内の大学に限られることから、神戸大学として申請し、大型予算として採択されました。

尚、来年度は学位（博士号）取得予定なので、科研費を短大から申請する予定です。